

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<14週> インフルエンザ、感染性胃腸炎 - 順調に定点当たり報告数が減少している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<インフルエンザ> 第8週の定点当たり19.5をピークとして以降速やかに減少している



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - インフルエンザ / 感染性胃腸炎



速報
P.6-7

あん入り餅を原因とする嘔吐型セレウス菌による食中毒事例 - 熊本市



海外感染症情報
P.8-9

黄熱輸入例 - 米国 / アフリカの髄膜炎ベルトでの髄膜炎菌感染症流行 / 他



感染症の話
P.10-12

ジフテリア

ジフテリアは国際的に予防対策が必要かつ可能な疾患として扱われ、WHOではExpanded Program on Immunization (EPI)の対象疾患の1つとしてワクチン接種を奨励している



読者のコーナー
P.13



グラフ総覧(14週)
P.14-20



14週のデータ
P.21-28



発生動向総覧

第14週コメント 4月12日集計分

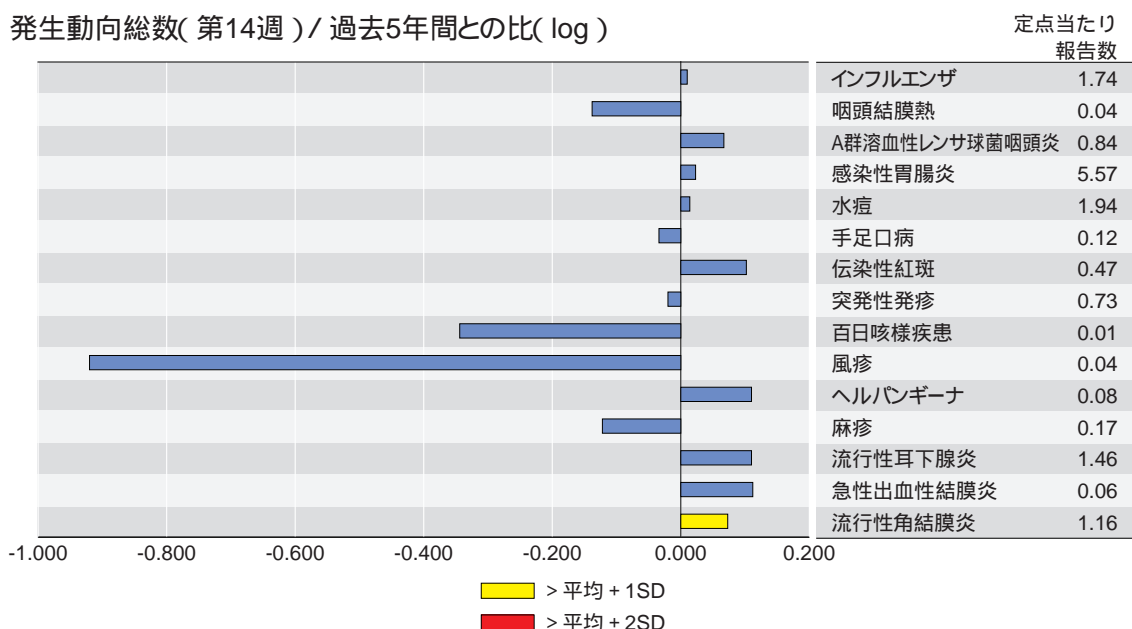
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢15例(推定感染地: 国内6例、ベトナム、インドネシア、ネパール、タイ各2例、インド1例) 腸チフス2例(推定感染地: インド1例、その他1例)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症6例(うち有症者4例)
- 4類感染症: アメーバ赤痢8例(推定感染地: 国内5例、インドネシア1例、不明2例)
 劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、ジアルジア症1例(推定感染地: ラオス)
 ツツガムシ病1例、破傷風2例(70歳女性と80歳男性、ともに外傷関連)
 バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例(VanB、VanCともに1例ずつ)
 急性ウイルス性肝炎16例 A型14例
 B型2例(感染経路: とともに性的接触)
 クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性)
 後天性免疫不全症候群6例(すべて無症候性キャリア)
 感染経路: 性的接触5例(異性間1例、同性間4例)、不明1例
 梅毒1例(早期顕症)
 マラリア2例(とともに熱帯熱マラリア__推定感染地: とともにインドネシア)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

流行性角結膜炎は、過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数がやや多くなっており、都道府県別では宮崎県(定点当たり報告数4.0)、茨城県(3.8)、愛媛県(3.4)からの報告が多い。他の疾患については、過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数がとくに多い状況ではない。しかし都道府県別にみると、インフルエンザでは新潟県(定点当たり報告数6.9)、宮崎県(4.8)、山形県(4.7)など、感染性胃腸炎は鳥取県(14.9)、宮崎県(14.4)、福井県(10.6)、鹿児島県(10.1)などの報告が多い(インフルエンザに関する詳しい情報は、4ページ「注目すべき感染症」参照)。流行性耳下腺炎は山形県(定点当たり報告数5.5)、沖縄県(4.3)、宮崎県(4.2)などの報告が多い。

発生動向総数(第14週)/過去5年間との比(log)

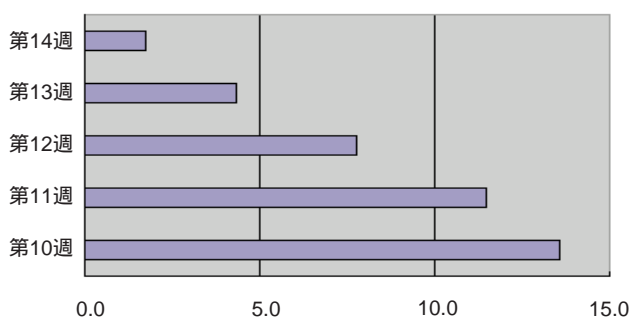


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

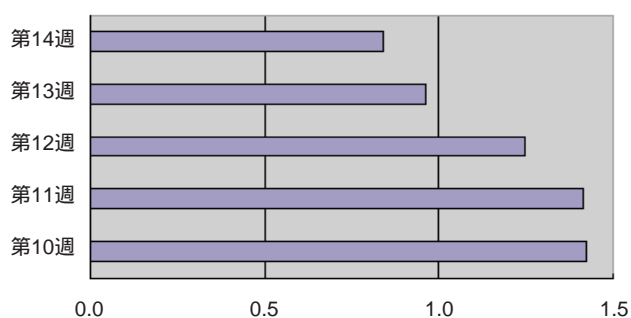
最近の注目疾患－5週間の動き

インフルエンザ、感染性胃腸炎の定点当たり報告数は順調に減少している。流行性耳下腺炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数も、前週と比べて減少した。水痘の定点当たり報告数は前週とほとんど変わらない。

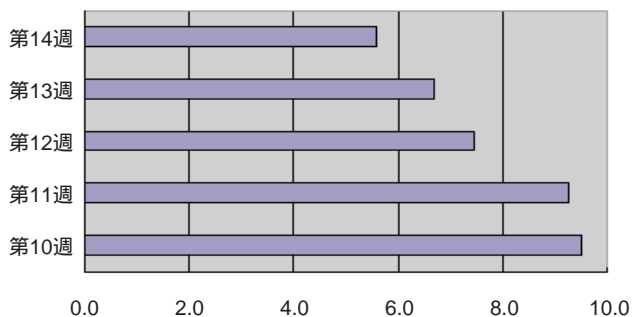
インフルエンザ



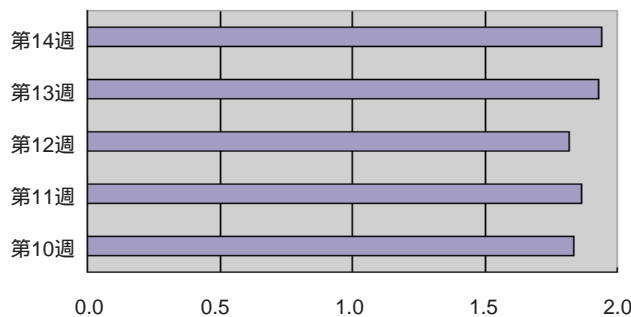
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



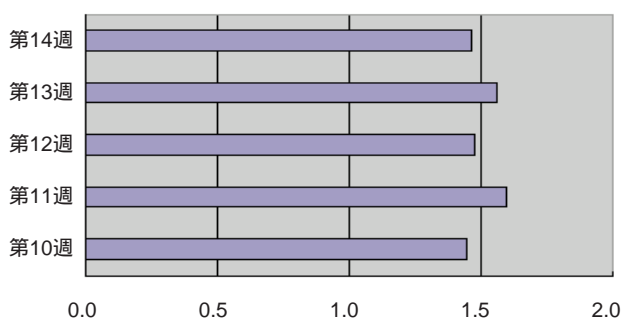
感染性胃腸炎



水痘



流行性耳下腺炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

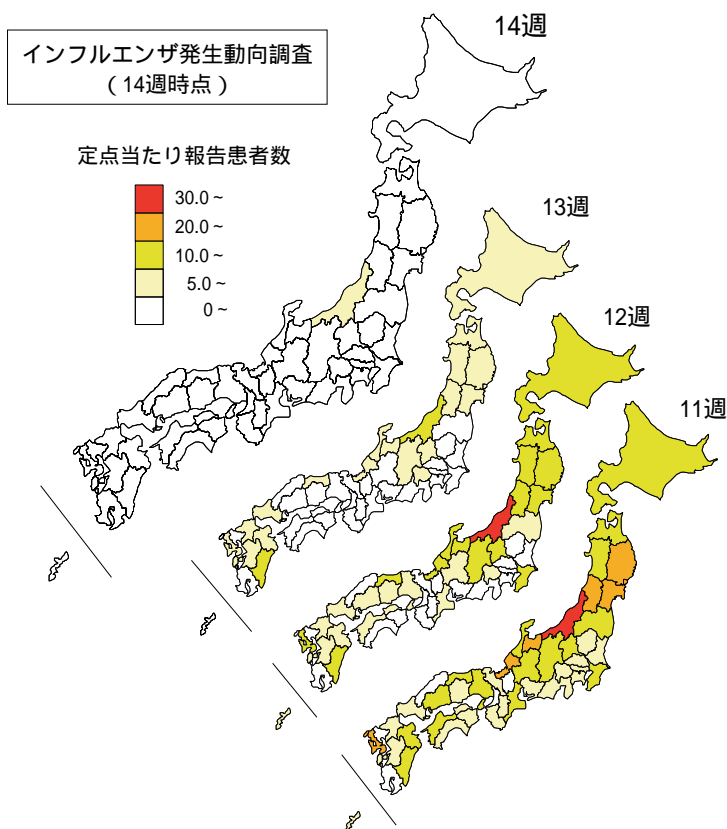
インフルエンザ

2001/2002シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は、2002年第8週の定点当たり19.5をピークとして以降速やかに減少している。ピークの定点当たり報告数としては1993/1994シーズン、2000/2001シーズンに続き過去10年間で3番目に小さい流行であった。

2002年第14週の全国定点からのインフルエンザ報告総数は8,155で、定点当たり報告数は1.74であった。本年第1週からの累積患者報告数は63万3,483人である。今週、都道府県別で定点当たり報告数が多くなっているのは、新潟県(6.9)、宮崎県(4.8)、山形県(4.7)などである。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによれば、大きな流行の存在を示唆する「警報」が発生しているのは北海道内の3保健所、新潟県内の2保健所など計11保健所に減少しており、今後4週間以内に流行現象が生ずる可能性が高い「注意報」も、熊本県内、宮崎県内のそれぞれ1保健所の計2保健所に減少した。また、警報または注意報の発生している保健所がみられない都道府県は38に増えている(「インフルエンザ警報・注意報マップ」は感染症情報センターホームページ・ピックアップ「インフルエンザ」参照。インフルエンザウイルスの分離・検出については5ページ病原体検出情報参照)。

厚生労働省が都道府県の学校担当部局などの協力を得て行っている、学校における「インフルエンザ様疾患発生報告」によると、平成13年10月28日から平成14年4月6日までの累積欠席者数は163,820人(去年同期62,558)、累積患者数は339,424(去年同期119,794)で、流行が小さかった去年同期の2.6 ~ 2.8倍となっている。





病原体情報

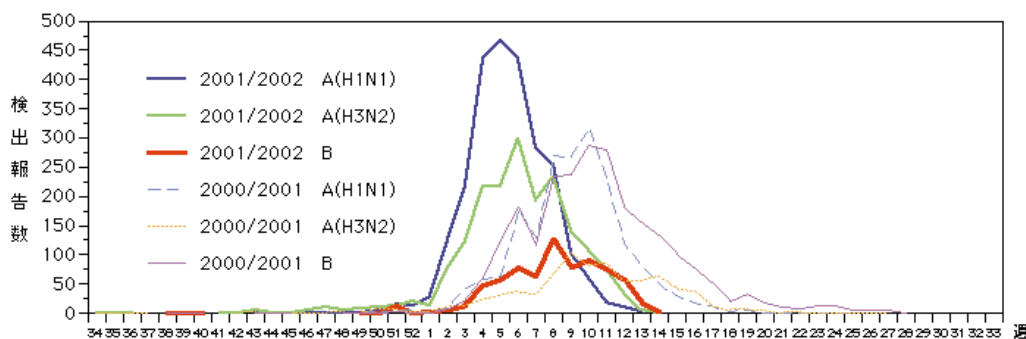
*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2002年4月12日現在報告分)

インフルエンザ 2001/02シーズン

今シーズンの分離・検出報告は、A/ソ連型(H1)が2,465件、A/香港型(H3)が1,799件、B型が727件である。昨シーズンと同様にA/ソ連、A/香港、B型の混合流行であるが、今シーズンはA/ソ連、A/香港型に関しては第2週から報告が増加し始め、第5～6週にピークを迎え、昨シーズンと比較して立ち上がり、ピークともに早くなっている。B型は第4週頃より報告が増加し始め、他の2つの型よりピークは遅れている。最近では、A/ソ連型が第13週に2(札幌市、秋田県)、A/香港型が第13週に6(4県市)、第14週に1(横浜市)、B型が第13週に17(6県市)、第14週に3(札幌市)が報告されている。

週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移、2001/2002シーズン

(病原微生物検出情報: 2002年4月12日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。

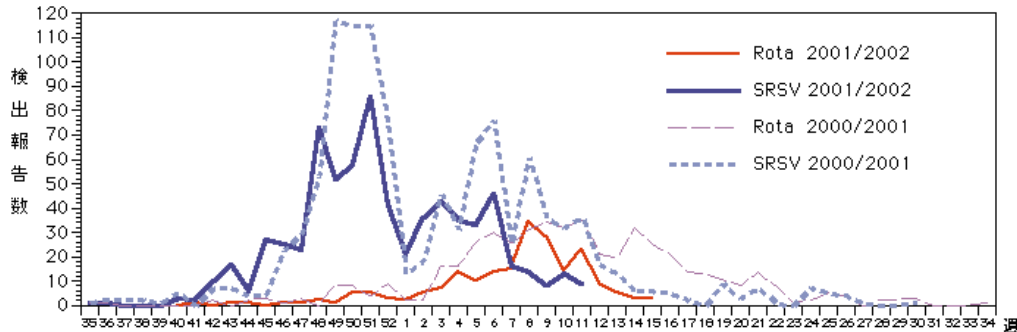


感染性胃腸炎 2001/02シーズン

今シーズンのSRSVの検出は、ノーウォーク様ウイルス(NLV)genogroup IIが445件、NLV genogroup Iが22件、NLV genogroup unknownが131件、サッポロ様ウイルス(SLV)が30件で、その他に電顕による検出が71件報告された。また、A群ロタウイルス189件、群不明ロタウイルス18件の検出が報告されている。SRSVは第51週をピークに減少し、第8週以降ロタウイルスがSRSVの検出数を上回っている。

週別SRSV&ロタウイルスの検出報告数、2001/2002シーズン

(病原微生物検出情報: 2002年4月12日現在報告数)





あん入り餅を原因とする嘔吐型セレウス菌による食中毒事例 - 熊本市

- 初めての健康危機管理対策部設置 -

2001(平成13)年12月1日(土曜日)午前11時45分、市内の保育園から熊本市保健所に、園主催の餅つき大会に参加していた園児らが嘔吐を主症状とした体調異常を起こしているとの通報があった。また、ほぼ前後して消防、警察にも同様の通報があった。参加者約440名で患者のほとんどが園児であり、症状が急性の嘔吐であったため、餅つき大会のあった会場(保育園)はパニック状態となった。現場では消防局がトリアージ(患者の緊急度や重症度に応じて搬送や治療の優先順位を決めること)を行い、救急車等による搬送は延べ37回に及び、参加者が受診した医療機関は病院12、診療所11の計23医療機関に上った。熊本市では、午後2時に2001年4月1日に策定した熊本市健康危機管理要綱に基づき、初めて健康危機管理対策部(対策部)を設置し、情報収集、各団体との連絡調整にあたった。当所では保健所からの連絡を受け、午後2時までに所長以下ほぼ全職員が参集して直ちに検査体制を整えると同時に、対策部を通じて熊本県保健環境科学研究所へ協力を要請した。一方、警察も毒劇物を疑い、食品、吐物等について県警の科学捜査研究所で検査を開始した。また、熊本赤十字病院でも園児の血清、吐物の薬毒物検査を行った。

餅つき大会の参加者は441名で、患者346名のうち園児は300名であった。潜伏時間は最頻値30分(階級30分)中央値1.5時間であり、主症状は嘔吐93%(322/346名)嘔気23%(81名)腹痛22%(75名)下痢9.8%(34名)であった。当所に搬入された試料は食品、吐物、ふきとり、便の4種類で、検体数はそれぞれ57、138、27、23、計245検体であった。発生状況等から黄色ブドウ球菌(ブ菌)セレウス菌(セ菌)農薬、砒素、シアン等毒物を優先的に検査し、一部の検体は通常の食中毒菌の検査も行った。

当初は化学物質か毒素型食中毒を疑っていたが、化学物質は当所を初めいずれの施設でも検出されず、患者の症状が軽度で回復が早かったこと、また、検査途中で食品の10倍乳剤のグラム染色標本を作り検鏡したところ、バチルス属様のグラム陽性桿菌を認めたことから、セ菌の食中毒の疑いを強くした。このことから、検査などに関し情報の収集や当所で困難な病原性の確認検査が必要と判断し、対策部を通じ厚生労働省に照会を行った。

その後、食品、吐物、ふきとりからセ菌が高頻度に分離された。また、RPLA法による食品のブ菌エンテロトキシン(SE)検査結果は陰性であった。食品、吐物から他の食中毒起因菌は分離されなかった。食品のセ菌量はあん入り餅 $4.4 \times 10^4 \sim 1.6 \times 10^6$ cfu/g、あんこ玉 $3.9 \times 10^5 \sim 5.7 \times 10^5$ cfu/gであった。分離されたセ菌はふきとり、便検体から分離された数株を除いて、すべてデンプン分解陰性であった。さらに病原性の確定のため、嘔吐毒(セレウリド)の検査を名古屋市衛生研究所に依頼した。一方、SEは少量でも食中毒を起こすことがあるため、高感度SE検査を福岡市保健環境研究所に依頼した。

その結果、食品、吐物、分離菌株等計41検体中39検体がセレウリド陽性であった。セレウリドの毒素量はあん入り餅、あんこ玉でそれぞれ160ng/g、640ng/gであった。SEは食品、吐物等依頼した12検体すべて不検出であった。分離されたセ菌はH血清型1型であった。

以上の結果から、今回の食中毒の原因はあんに含まれていたセ菌のセレウリドによるものと断定された。その後の調査で、原因食品のあん入り餅の製造工程で、あんは小豆を煮た後砂糖を

加えて煮詰めるまでの間、1日室温で放置されていたことが判明し、この間にセ菌が増殖してセレウリドを産生したのではないかと考えられた。

対策部は立ち上げと同時に情報の一元化を図り、対策部長(健康福祉局長)が記者レクチャーなどの報道対応を行い、食中毒の断定などを行った後、12月7日午前9時をもって解散した。

当所では、今回のような健康危機管理対応事例を経験し、検査の実施とともに対策部などと検査状況についての連絡調整に追われたことから、関係機関との情報ネットワーク化の必要性和、国や地方衛生研究所間の協力(ネットワーク)の重要性を痛感した。

今回の事件の解明にあたって、岩手大学・品川先生、東京都立衛生研究所・甲斐先生、熊本県保健環境科学研究所・相良次長、甲木先生、宮坂先生から貴重なアドバイスをいただきました。また、毒素検査を快くお引き受け頂きました名古屋市衛生研究所・安形先生および福岡市保健環境研究所・馬場先生に深謝いたします。

熊本市環境総合研究所

松岡由美子 新屋拓郎 藤井幸三

(IASR2002年4月号掲載記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

黄熱輸入例 - 米国

WHO/WER 2002年4月12日

テキサス州出身の47歳の男性(黄熱ワクチン未接種)が、3月上旬にブラジルのManausへの釣り旅行後に黄熱で死亡した。発症は2002年3月10日であった。入院したのは3月12日であり、3月16日に死亡した。

アフリカの髄膜炎ベルトでの髄膜炎菌感染症流行

WHO/CSR 2002年4月10日、4月12日

髄膜炎菌感染症がサハラ以南の髄膜炎ベルトと呼ばれる地域で発生し、過去最高の患者数が報告されている。この地域はセネガルとエチオピアの間にあり15カ国が含まれ、推定総人口は約3億人である。流行は国の位置及び気候によって11月の終わりから6月の終わりまでに季節的なサイクルで発生し、雨季の到来で急速に減少する。

ベナン: 1月1日から3月31日までに、50名の死亡(致命率10.2%)を含む490名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。

ブルキナファソ: 4月11日現在ブルキナファソ保健省は、2002年1月1日から1,059名の死亡を含む8,446名の髄膜炎患者を報告した。

チャド: Koumra、Gore、Pala地区で患者が発生したとWHOに報告された。A群髄膜炎菌が確認された。集団予防接種キャンペーンがGoreおよびPala地区で実施された。

コートジボワール: 1月1日から3月31日までに、32名の死亡(致命率17%)を含む189名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。

エチオピア: 2001年9月の流行開始以来4月3日現在で、166名の死亡(致命率4.7%)を含む3,540名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。

ガンビア: 1月1日から3月31日までに、3名の死亡(致命率6%)を含む50名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。

ガーナ: 1月1日から3月31日までに、190名の死亡(致命率14%)を含む1,407名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。A群髄膜炎菌が確認され、集団予防接種キャンペーンが実施されている。

ギニア: 1月14日から2月3日の間にYoumou地区で、6名の死亡(致命率27%)を含む22名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。A群およびC群髄膜炎菌が確認された。患者治療とワクチン接種が実行された。

マリ: 1月1日から3月31日までに、29名の死亡(致命率8.6%)を含む336名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。A群髄膜炎菌が分離され、患者の調査が実施された。

モーリタニア: 1月7日から3月31日までに、2名の死亡(致命率8%)を含む26名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。

ニジェール: 1月1日から3月31日までに、210名の死亡(致命率8.4%)を含む2,508名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。大部分の患者からA群髄膜炎菌が確認されたが、W135群髄膜炎菌も確認された。

ソマリア: 2001年10月に始まった流行以来3月1日現在で、15名の死亡(致命率6.3%)を含む237名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。A群髄膜炎菌が確認された。

スーダン: 2月11日現在、同国南部で49名の死亡(致命率14.8%)を含む330名の髄膜炎患者が発生したと報告された。A群髄膜炎菌が確認された。

セネガル: 1月7日から3月10日までに、6名の死亡(致命率8.5%)を含む71名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。

タンザニア: 2001年11月から2002年2月にタンザニア西部のKibondo地区の難民キャンプで、6名の死亡(致命率7.8%)を含む84名の髄膜炎患者が発生したと報告された。A群髄膜炎菌が分離された。

トーゴ: 1月1日から3月24日までに、91名の死亡(致命率16%)を含む559名の髄膜炎患者が発生したとWHOに報告された。A群髄膜炎菌が分離された。

ガボンおよびコンゴ共和国のエボラ出血熱 - 更新

WHO/CSR 2002年4月9日

ガボン: 2002年4月4日ガボン保健省は、死亡53名を含む診断確定患者65名を報告した。現在、接触者53名の経過観察を行っている。最近の患者はMekambo北部の村々で報告されており、ゴリラとの接触が原因である。フランスビルの国際医学研究センターで行われた検査で、ゴリラの死骸から採取した検体がエボラウイルス陽性であると判明した。Makokou地区では2002年2月末以来、新たな流行は発生していない。

コンゴ共和国: 2002年3月29日現在、死亡20例を含む診断確定患者32例がCuvette地方、Mbomo地区から報告された。現在この地区での新たな流行発生の兆候はない。

2002年4月1日現在、予備的な流行情報によれば、Kelle地区の村々から死亡23例を含む診断確定患者25例が報告された。この地区で最後に診断が確認された患者は3月18日に死亡した。現地での協力が得られないため、流行征圧対策が妨げられ、徹底した調査が実施できていない。WHOを中心とした国際チームは対策活動への援助を継続している。



感染症の話

ジフテリア

ジフテリア(*diphtheria*)はジフテリア菌(*Corynebacterium diphtheriae*)の感染によって生じる上気道粘膜疾患であるが、眼瞼結膜・中耳・陰部・皮膚などがおかされることもある。感染、増殖した菌から産生された毒素により昏睡や心筋炎などの全身症状が起こると死亡する危険が高くなるが、致死率は平均5～10%とされている。現在我が国ではトキソイドワクチンの接種により患者は激減し、年間数例が散発的に報告されるだけとなったが、1990年代前半からの旧ソビエト連邦での大流行は、欧州各地を巻き込んだ国際的な問題となった。ジフテリアは国際的に予防対策が必要かつ可能な疾患として扱われ、WHOではExpanded Program on Immunization(EPI)の対象疾患の1つとしてワクチン接種を奨励している。

疫学

我が国におけるジフテリア患者の届け出数は、1945年には約8万6千人(その約10%が死亡)であったが、最近10年間(1991～2000年)では21人(死亡2人)と著しく減少した(図1)。ジフテリアを含む三種混合ワクチン(ジフテリア・百日咳・破傷風:DPT)は世界各国で実施されており、その普及とともに各国においてジフテリアの発生数は激減している。

旧ソ連圏では、かつてはDPTの普及によってジフテリア患者数は極めて少数となっていたが、政権崩壊のあおりを受けてワクチンの供給不足、あるいは安定性の低下によって住民の免疫レベルは低下し、その結果旧ソ連圏一帯でジフテリアが再び流行した。1990～1995年で125,000人の患者が発生し、4,000人以上の死亡が確認された。国際協力によるワクチンの接種強化により、旧ソ連でのジフテリアは再び減少した。このようにワクチン接種率が低下すると、ジフテリアは再び流行する危険性があることが示唆されている。欧米諸国や発展途上国でも散発例が見られており、海外渡航者の感染発症事例もある。

病原体

ジフテリア菌(*Corynebacterium diphtheriae*)の感染により発症する。患者や無症候性保菌者の咳などにより、飛沫を介して感染する。毒素産生菌、非産生菌とも重症化の可能性がある。また、ジフテリア菌は3種類のバイオタイプ(*gravis*型、*mitis*型、*intermedius*型)に分類されているが、病原性との間に密接な関係はないと考えられている。

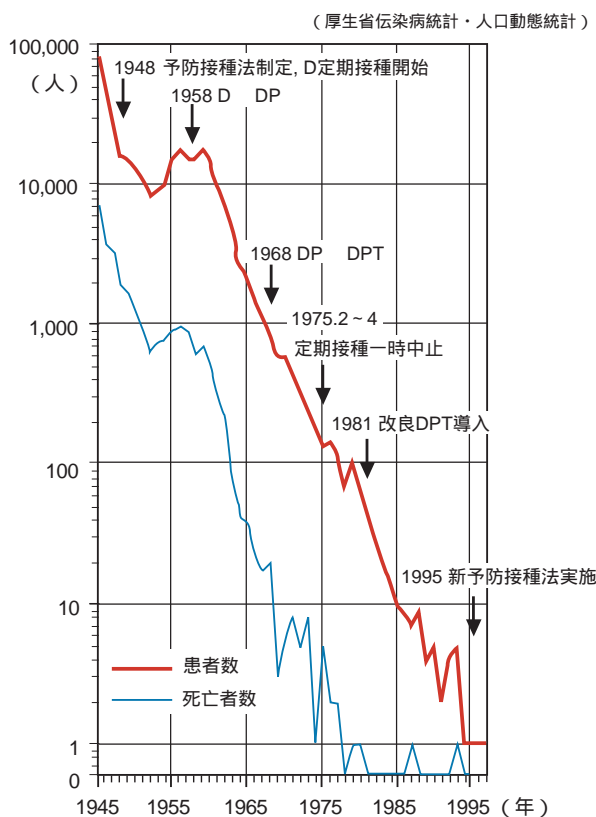


図1. ジフテリア届出患者数および死亡者数の推移、1945～1997年

Corynebacterium ulcerans(コリネバクテリウム・ウルセランス)はジフテリア様の臨床像をきたす人獣共通感染症の起病菌であり、一般にウシやヒツジとの接触、または生の乳製品などを摂取することにより感染することが知られている。我が国でも2001年2月に、ジフテリア様症状を呈した患者からジフテリア毒素産生能を持った*C. ulcerans* が分離された(病原微生物検出情報 vol.23 No.3(2002.3. 7)(61))。 *C. ulcerans* はウシの常在菌であるが、ジフテリア毒素遺伝子を持ったファージが溶原化して、ジフテリア毒素産生能を持つ菌となることがある。ジフテリアの類似疾患を起こす病原体として注意が必要である

臨床症状

2～5日間程度の潜伏期を経て、発熱・咽頭痛・嚥下痛などで始まる。鼻ジフテリアでは血液を帯びた鼻汁、鼻孔・上唇のびらんが見られる。扁桃・咽頭ジフテリアでは扁桃・咽頭周辺に白～灰白色の偽膜が形成される(図2)。ジフテリアの偽膜は厚く、その境界は鋭利で剥れにくく、剥がすと出血しやすい。頸部リンパ節炎が特徴的であり、高度に腫張すると牛頸(bull neck)状となる。喉頭ジフテリアは咽頭ジフテリアから発展する 경우가多く、嚔声・犬吠性咳嗽が特徴的である(真性クループ)。気道にも偽膜が形成されるため、呼吸困難が生じる。膜形成が声門、気管支まで進展すると、気道閉塞をきたし死に至ることがある。



図2. ジフテリアにおける咽頭の所見。咽頭における発赤・腫脹とともに、扁桃には剥離しがたい偽膜が付着している。(柳下徳雄先生提供、日本医師会雑誌67巻7号)

合併症としては早期(1～2病週)および回復期(4～6病週)にあらわれる心筋炎がもっとも予後不良で、この間は突然死に対する厳重な警戒が必要である。したがって、主症状が改善した後も慎重な観察が必要である。末梢神経炎による神経麻痺は合併症の頻度として高いが、予後は比較的良好である。

病原診断

ジフテリアの確定診断には、患者の病変部位からジフテリア菌を分離することが重要である。患者に抗菌薬や抗毒素を投与する前に、病変部位の材料(偽膜、咽頭変色部位、潰瘍部位など)のグラム染色(陽性桿菌)と異染小体染色を行うとともに、PCR法でジフテリア毒素遺伝子の検査、およびチンスダール培地、亜テルル酸塩加血液寒天培地、レフレル培地などで分離培養する。分離された菌についての毒素産生能については、寒天内沈降反応法(Elek法)や培養細胞法、ウサギ試験法、モルモット試験法などを行う。生化学性状試験については、市販品のアピコリネキットやRap ID CB Plusが便利である。PCR法は迅速性があり、スクリーニングに適しているが、確定診断にはジフテリア菌の検出が必須であり、各試験結果を総合して最終判定を行う。感染後の抗体の上昇は著明ではないといわれており、抗体価による診断はむずかしい。

治療・予防

治療開始の遅れは予後に著しい影響を与えるので、臨床的に本症が疑わしければ確定診断を待たずに治療を進める必要がある。

治療には動物(ウマ)由来の血清療法が行われるので、アナフィラキシーに対して十分な配慮をする必要がある。治療により、予測不能なショック症状およびショック死の可能性もあり得る。抗菌薬としてはペニシリン、エリスロマイシンなどに感受性がある。しかし、予防に勝る治療法はない。

予防としては、世界各国ともEPI(Expanded program on Immunization: 拡大予防接種事業)ワクチンの一つとして、DPTワクチンの普及を強力に進めている。我が国では1948年にジフテリア単独ワクチン、1958年にジフテリア・破傷風混合ワクチン、1968年以降にDPTワクチンとなり、さらに1981年から現行のDPTワクチン(百日咳ワクチンは無細胞ワクチン)となっている。予防接種の普及により、わが国では現在年間1名程度の発症が報告されているにすぎないが、今後ワクチン接種者が減少した場合や、海外からの持ち込みにより流行の可能性が懸念される。

我が国で行われているDPT三種混合ワクチンは、1期初回として生後3～90カ月(標準的には生後3～12カ月)に3回、その12～18カ月後に追加接種を行い、11～12歳にDT二種混合ワクチンにより第2期接種が行われている。第1期の接種率は良好であるが、第2期のDTワクチンの接種率は70%前後である。本症の重大さを理解し、日頃からワクチンによる予防に積極的になる必要がある。

培養細胞法で抗毒素価(中和抗体)が0.1 IU/ml以下の場合には、ジフテリアトキソイドによる予防接種が必要であるとされている。

感染症法における取り扱い

ジフテリアは2類感染症に指定されており、ジフテリアもしくは病原体保有者であると診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に届け出る。患者は原則として第二種感染症指定医療機関に入院となるが、無症状者は入院の対象とはならない。また、ジフテリアには疑似症の適用はない。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の方法によって病原体診断がなされたもの

材料: 病変(感染)部位からの採取材料

- ・病原体の検出
 - ジフテリア菌の分離と同定、ならびに分離菌におけるジフテリア毒素の検出
- ・病原体の遺伝子の検出
 - 例、PCR法など

学校保健法での取り扱い

ジフテリアは学校において予防すべき伝染病第一種に定められており、治癒するまで出席停止となる。

(国立感染症研究所細菌第二部 高橋元秀、小宮貴子、岩城正昭)



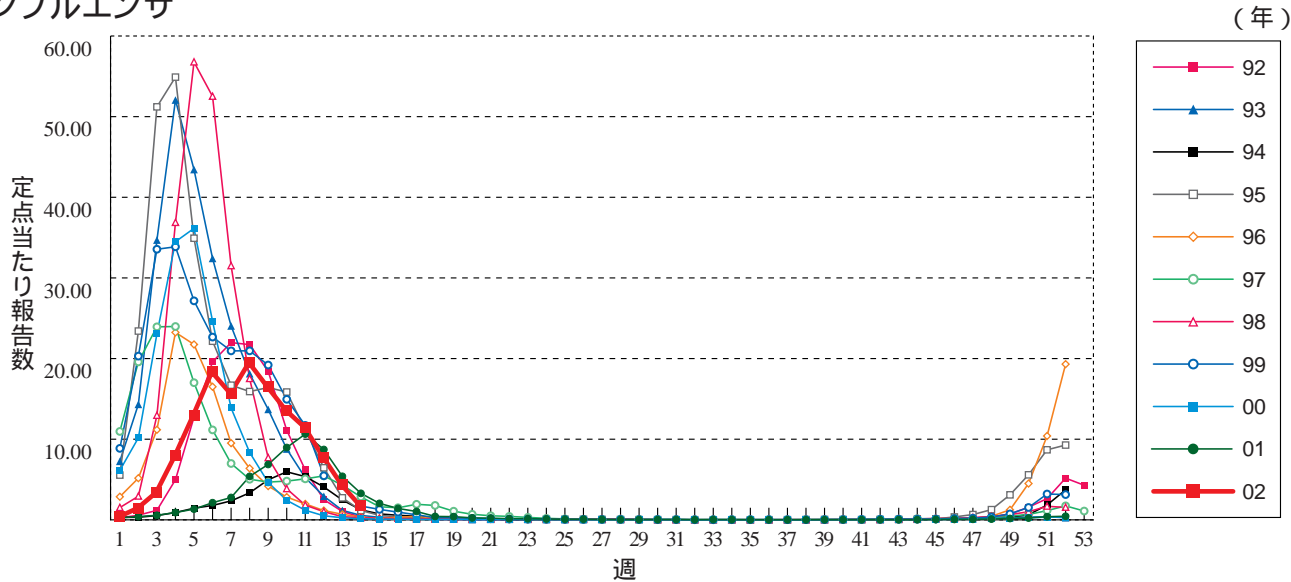
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

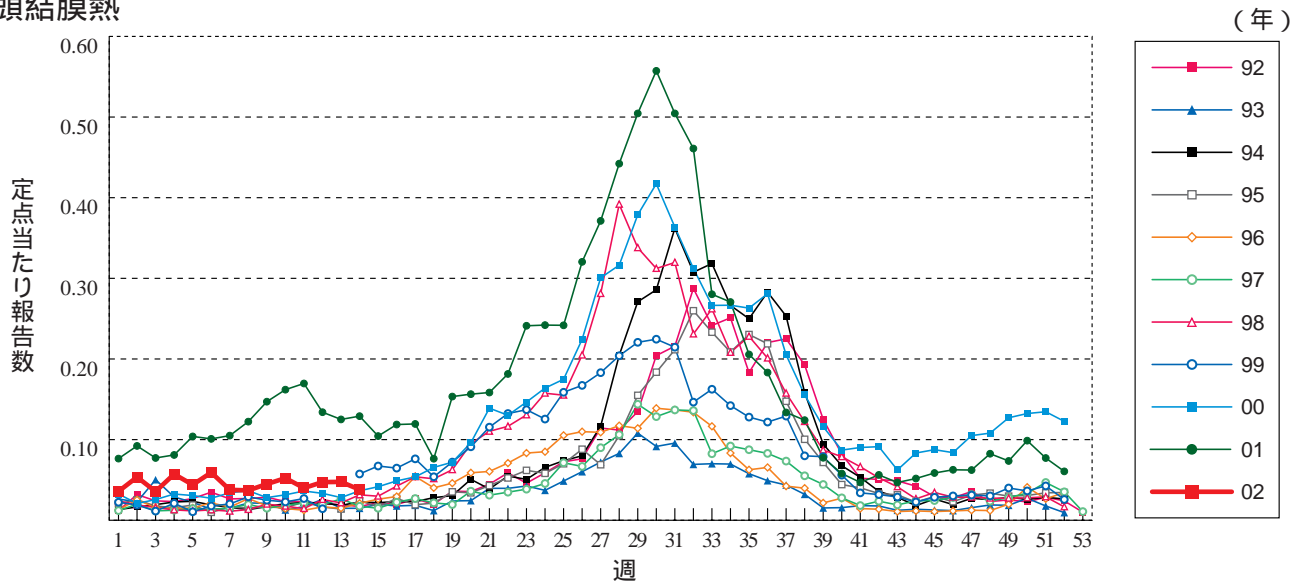
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(14週)

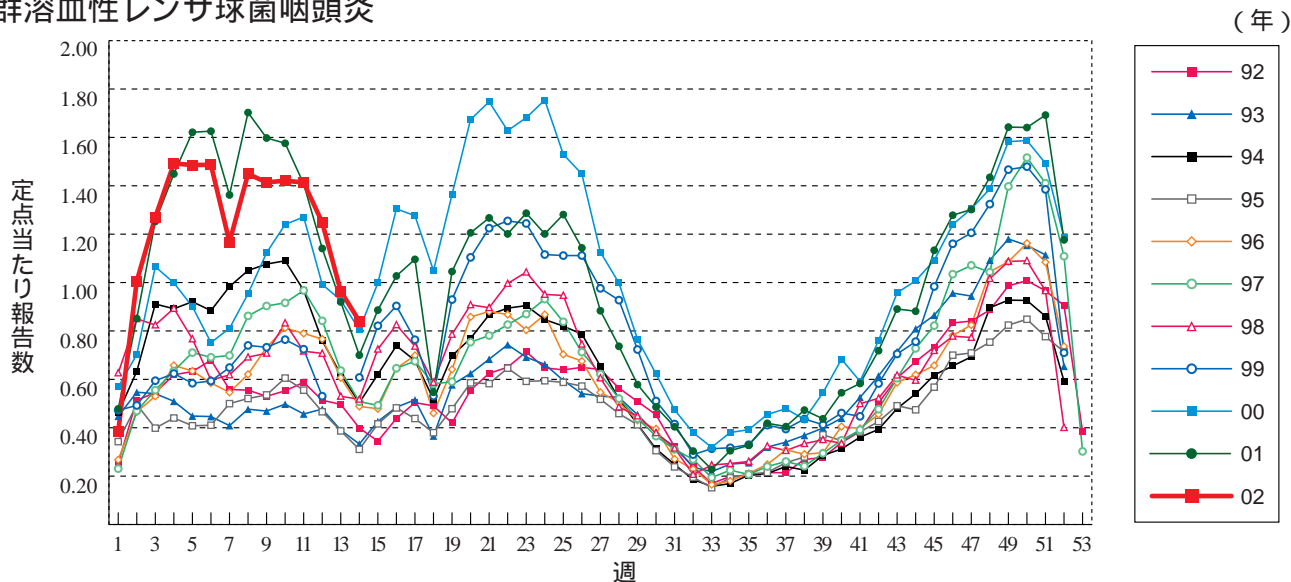
インフルエンザ



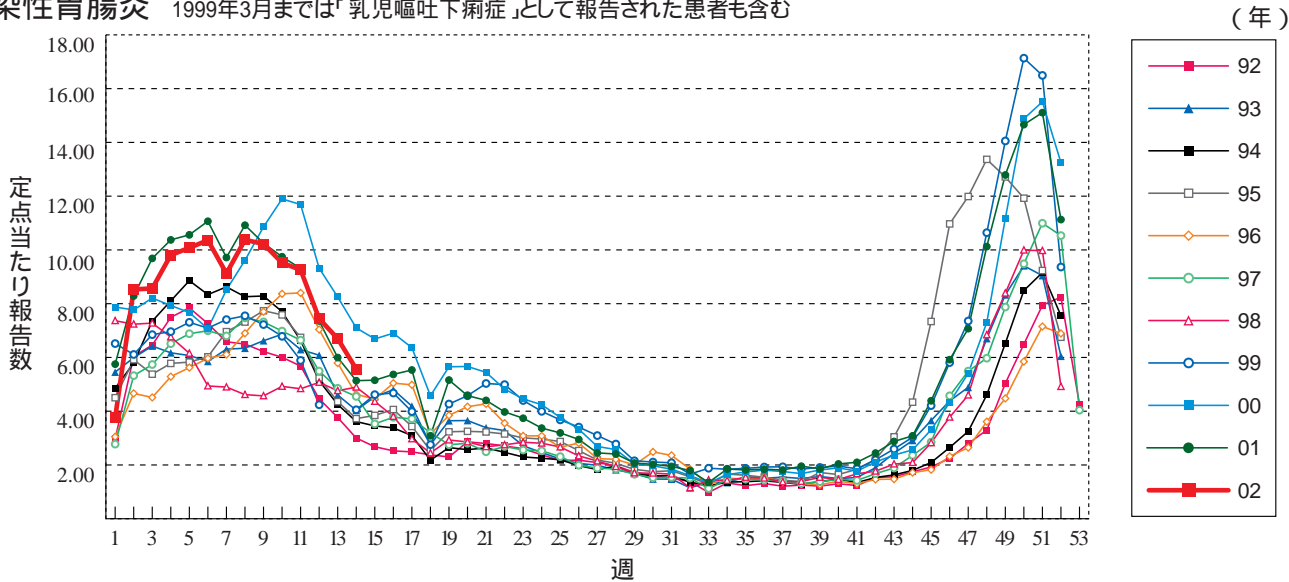
咽頭結膜熱



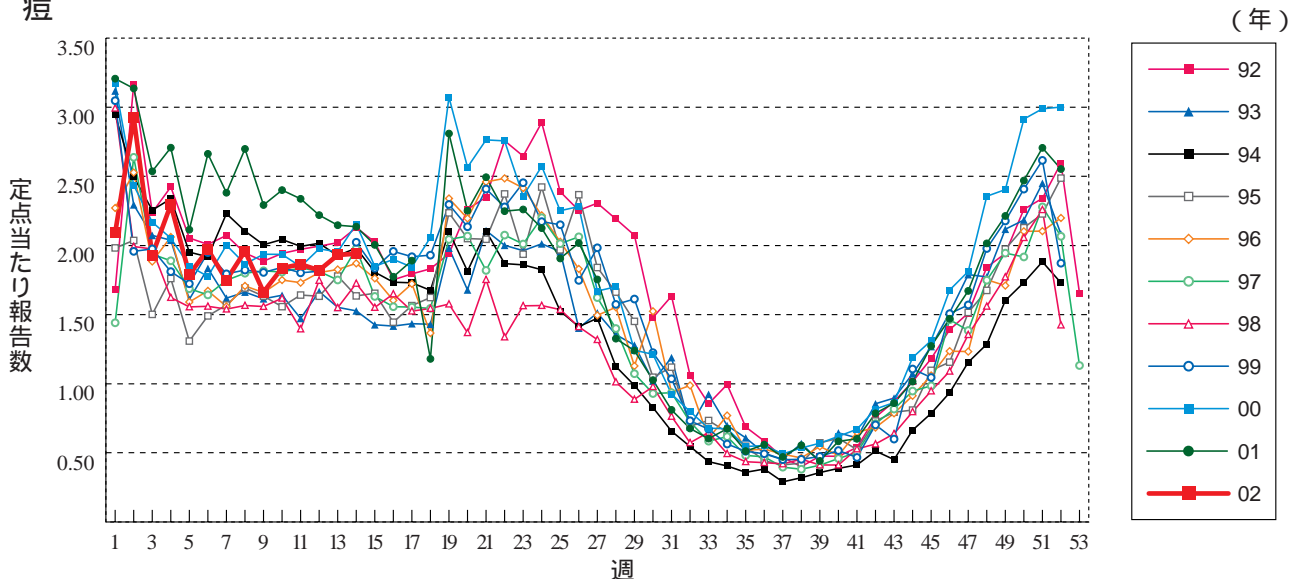
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



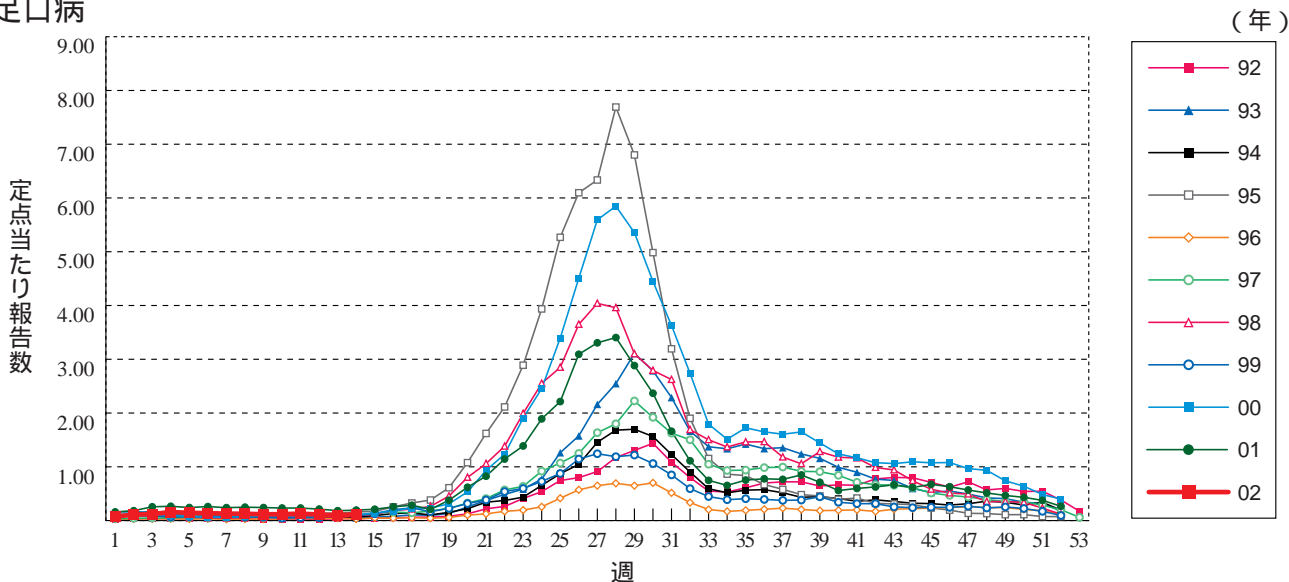
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



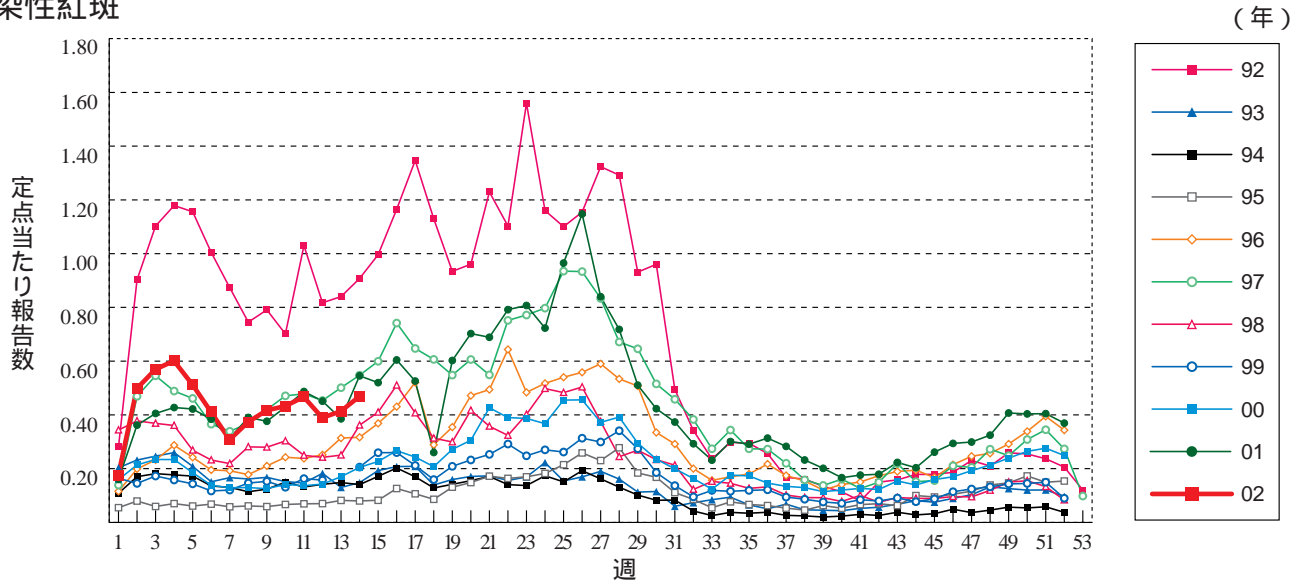
水痘



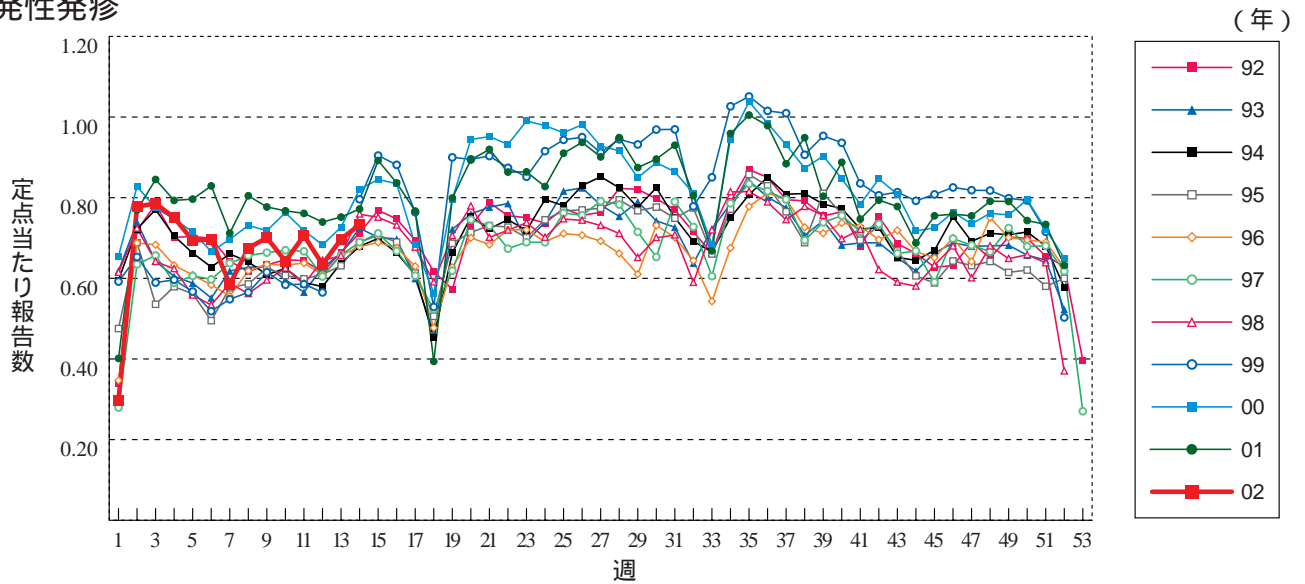
手足口病



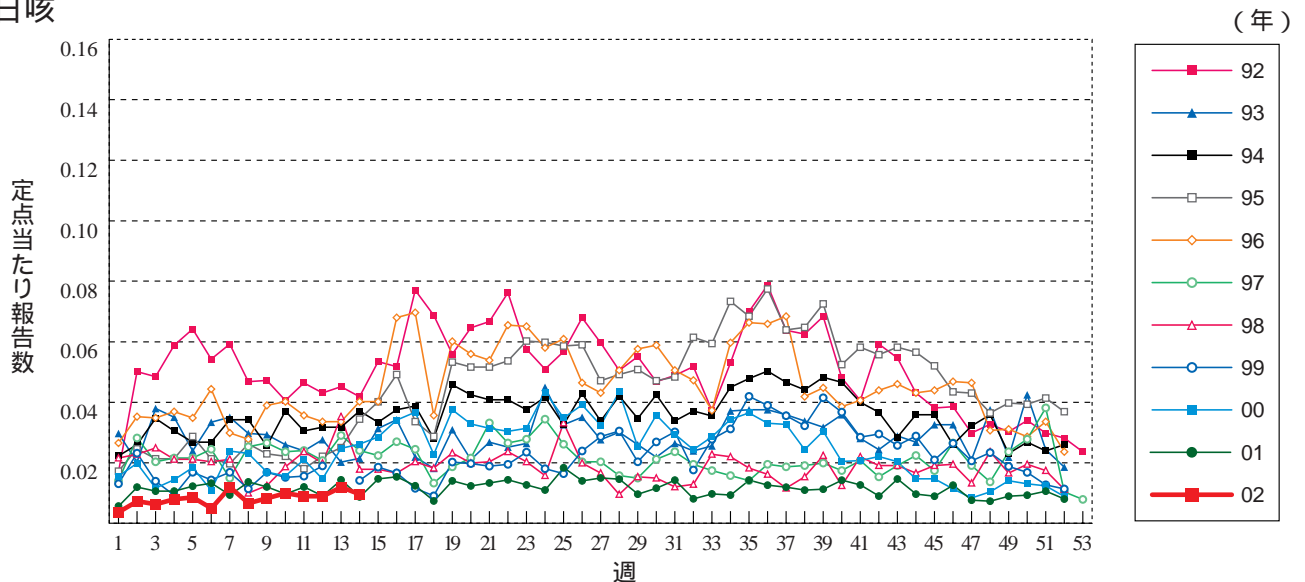
伝染性紅斑



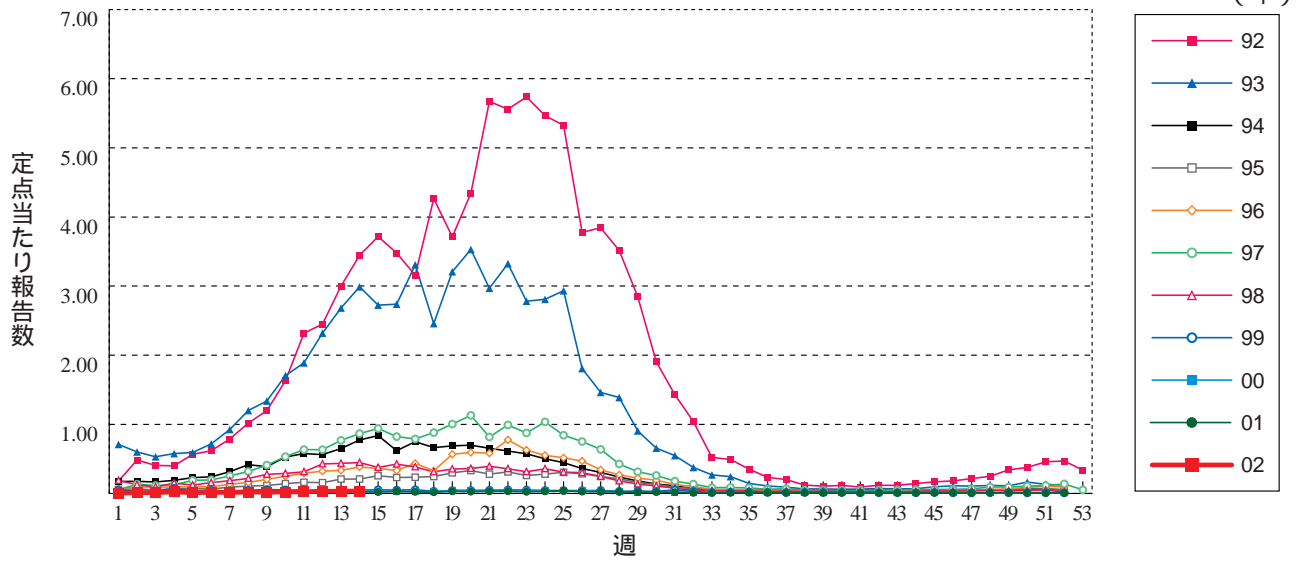
突発性発疹



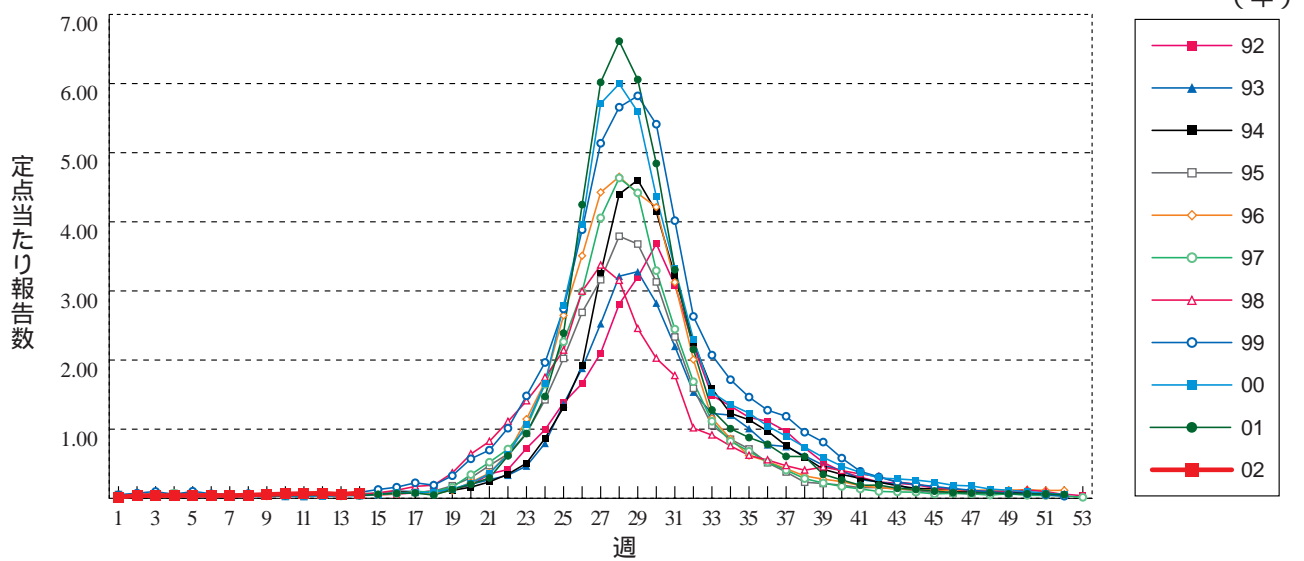
百日咳



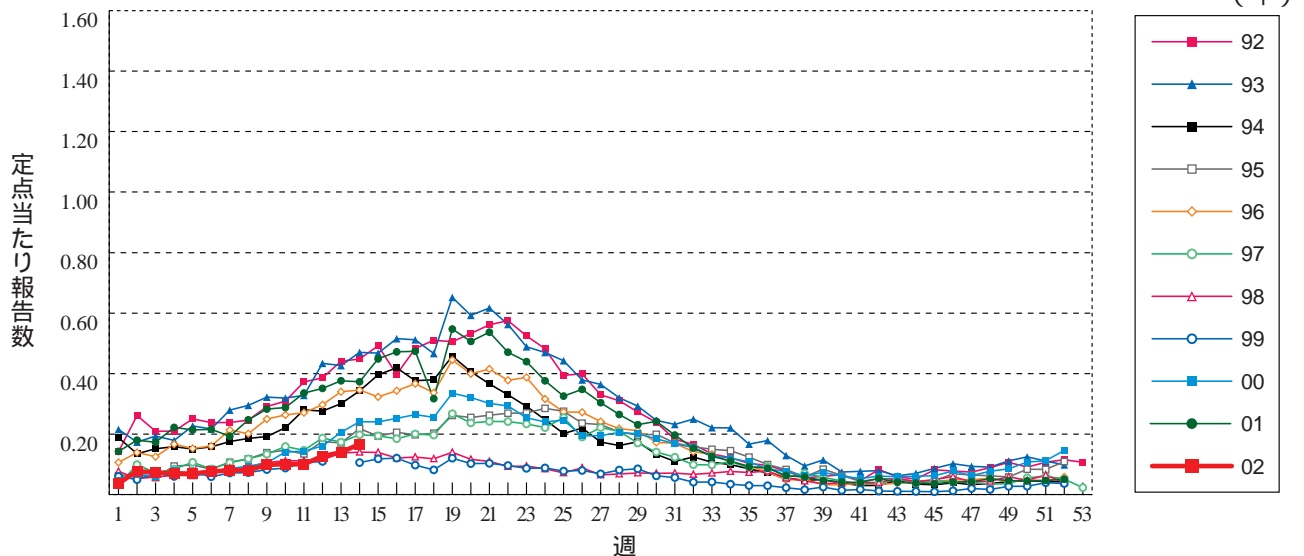
風 疹



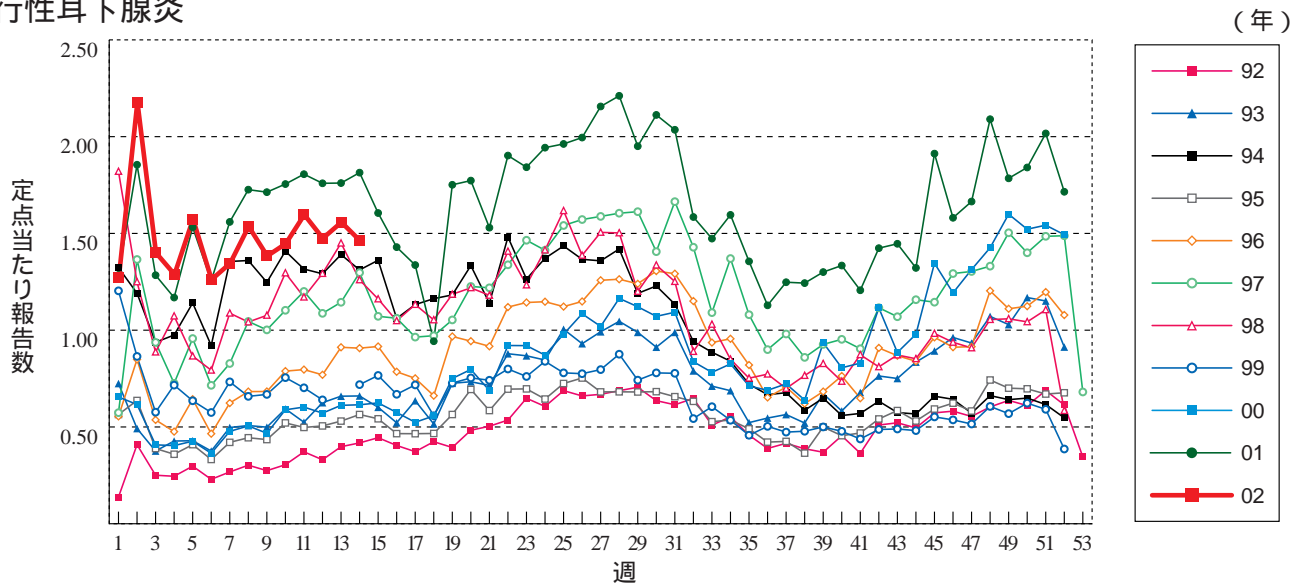
ヘルパンギーナ



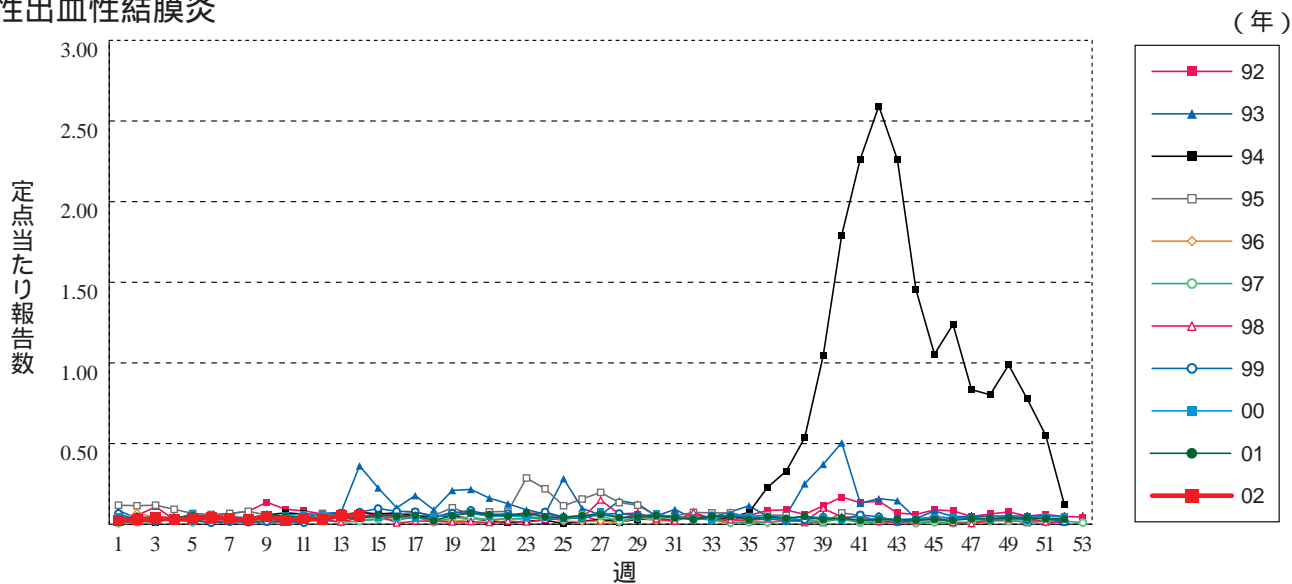
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



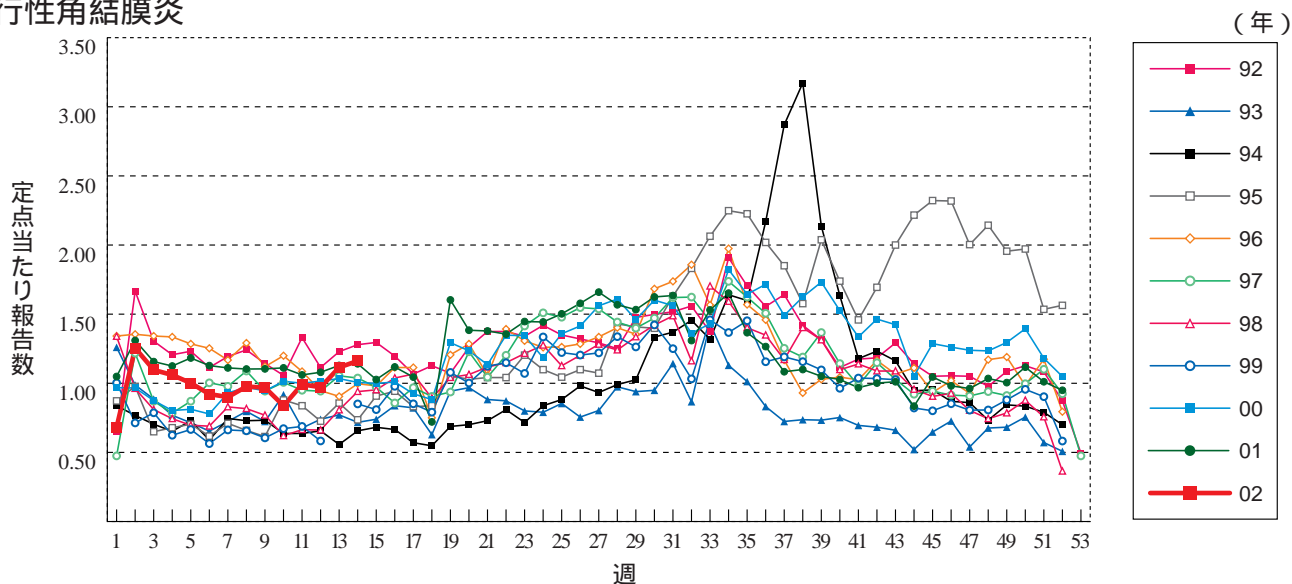
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

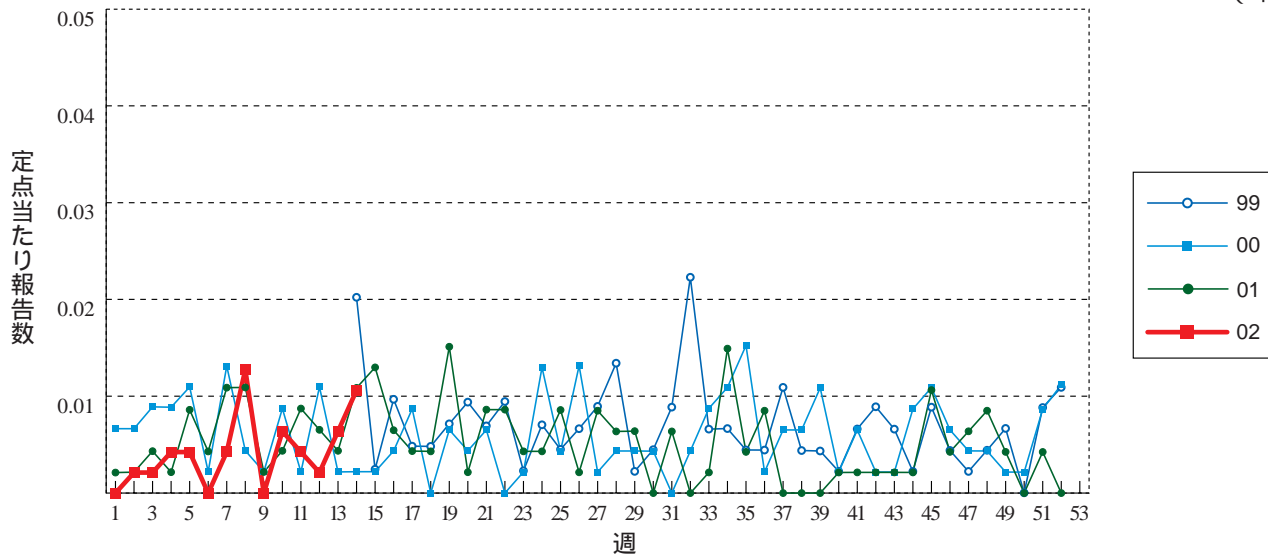


流行性角結膜炎



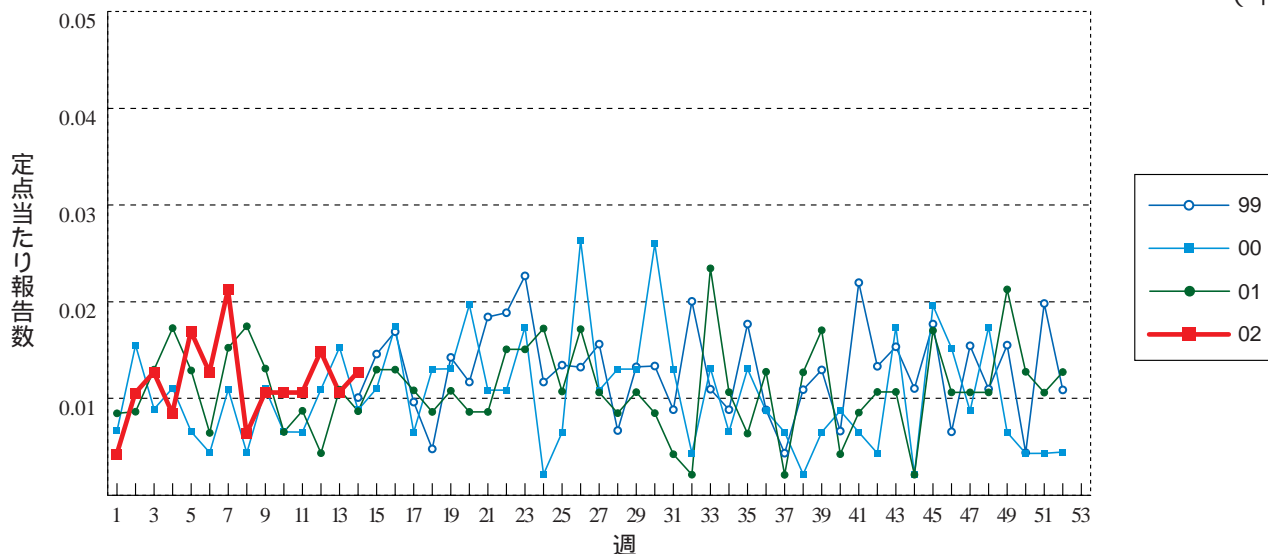
急性脳炎（日本脳炎を除く）

(年)



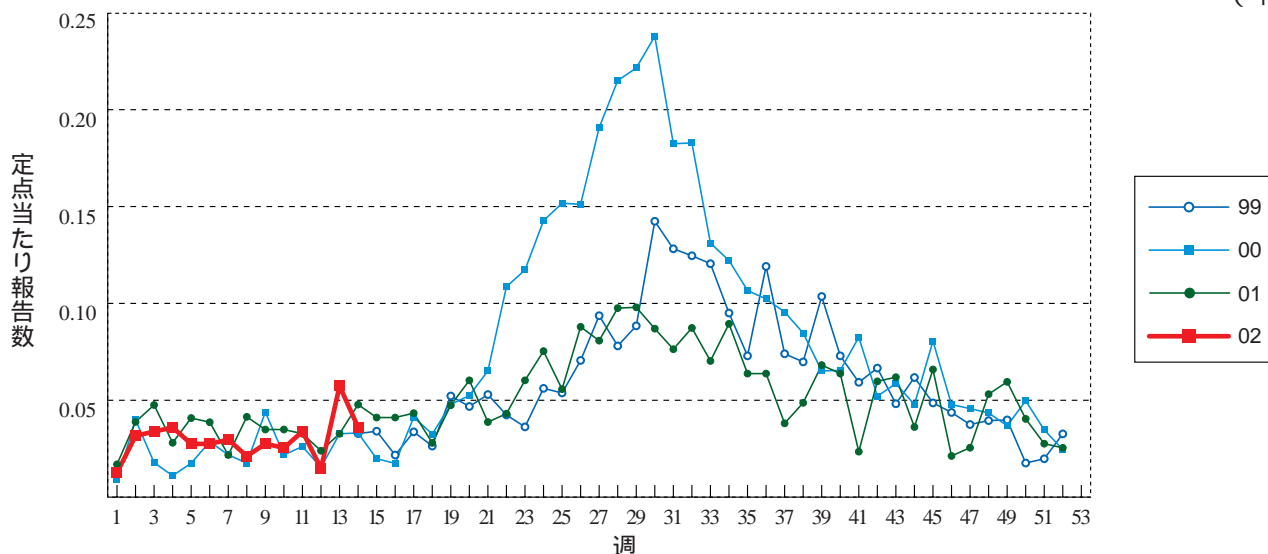
細菌性髄膜炎

(年)



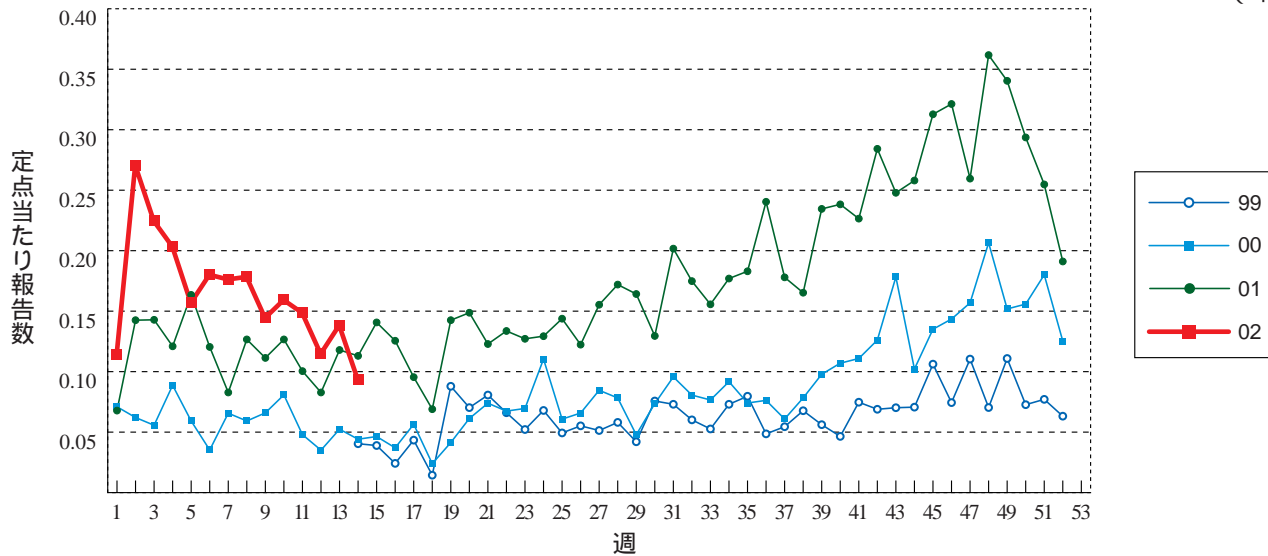
無菌性髄膜炎

(年)



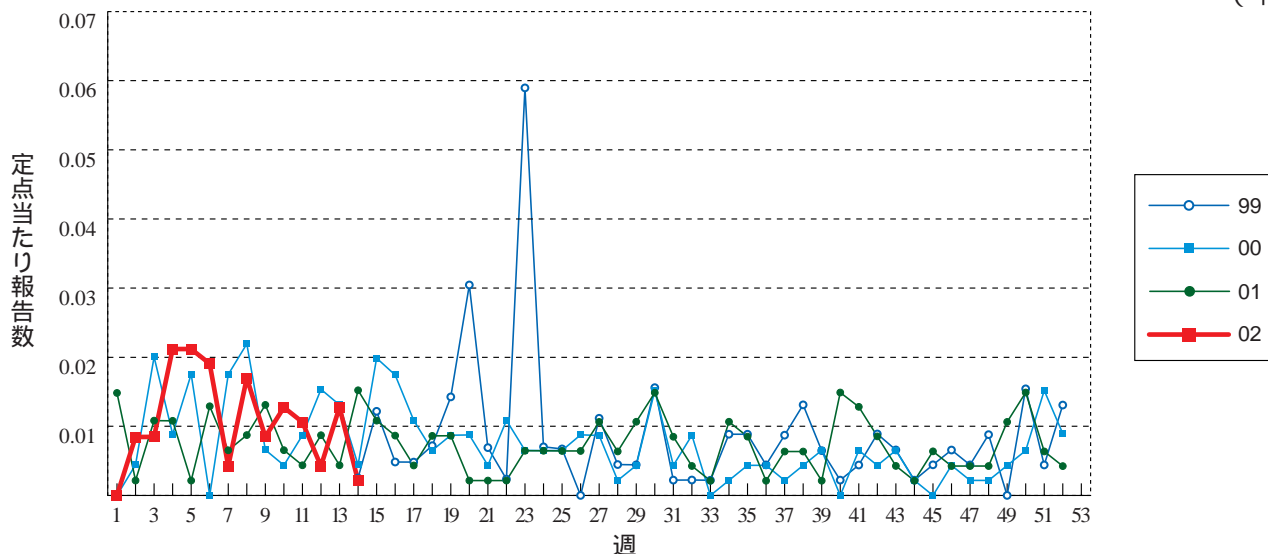
マイコプラズマ肺炎

(年)



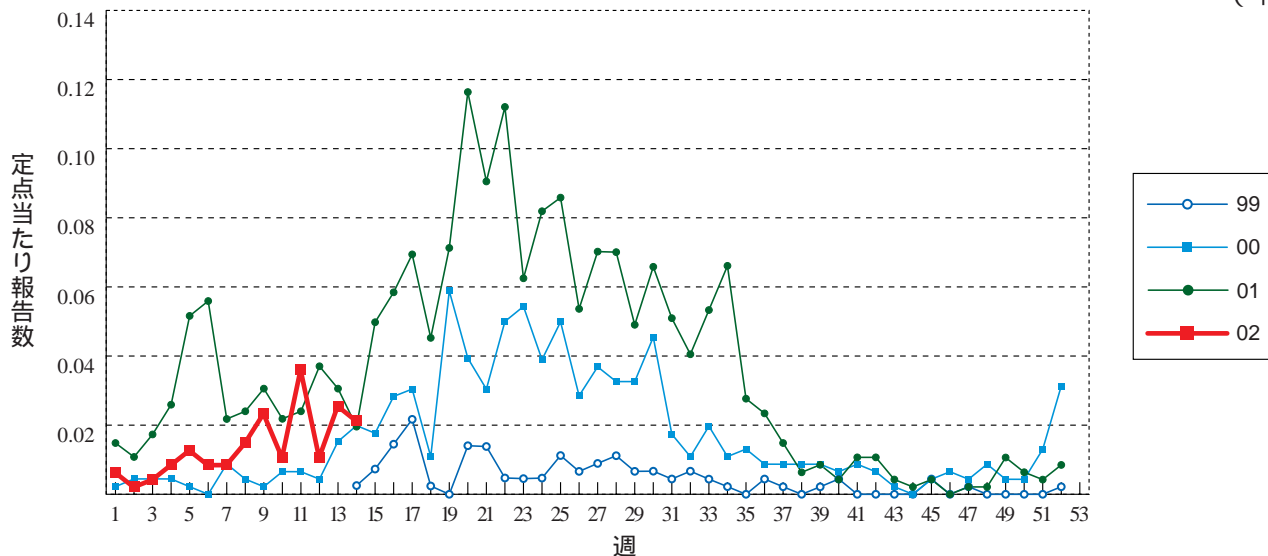
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





14週 of Data

注)表中の報告数は4月12日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年14週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	15	282	2	15	-	7	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	63	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	23	1	7	-	-	2
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	2	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	6	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	1
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	11	-	3	-	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	1	2	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	28	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年14週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	6	118	8	100	-	2	-	-	-	25	-	-	16	268
北海道	-	-	-	-	-	3	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
宮城県	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	13
秋田県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	2	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
東京都	-	-	-	-	2	6	2	21	-	-	-	-	-	1	-	-	3	46
神奈川県	-	-	-	-	-	8	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
岐阜県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	9
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	12
愛知県	-	-	-	-	-	7	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
三重県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	6	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
大阪府	-	-	-	-	-	8	1	12	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11
兵庫県	-	-	-	-	-	19	1	6	-	-	-	-	-	2	-	-	2	11
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
広島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	8
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
徳島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	-	7	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
佐賀県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
鹿児島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年14週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	2	-	-	-	63	1	38	3	30	6	186	-	1	1	20	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	1	13	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	2	-	2	-	2	2	82	-	-	1	9	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	11	-	-	-	2	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	5	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	4	1	4	-	11	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	15	-	1	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	61	1	2	-	3	-	4	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年14週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	1	41	-	11	-	-	-	-	-	-	1	134
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福島県	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	-	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	16
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	6
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	26
兵庫県	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	6
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
広島県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年14週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	2	12	2	11	-	-	-	-	-	-	-	-	2	24	-	-	-	29
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
東京都	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	6
神奈川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	3
兵庫県	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年14週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	8155	1.74	115	0.04	2544	0.84	16855	5.57	5874	1.94	352	0.12	1419	0.47	2219	0.73	29	0.01
北海道	733	3.19	1	0.01	224	1.54	350	2.41	183	1.26	12	0.08	38	0.26	76	0.52	-	-
青森県	173	2.70	-	-	40	0.98	160	3.90	38	0.93	3	0.07	59	1.44	18	0.44	-	-
岩手県	148	2.43	-	-	11	0.30	127	3.43	65	1.76	2	0.05	10	0.27	15	0.41	-	-
宮城県	318	3.28	1	0.02	47	0.80	468	7.93	122	2.07	16	0.27	42	0.71	45	0.76	-	-
秋田県	173	3.15	-	-	36	1.03	174	4.97	41	1.17	1	0.03	53	1.51	25	0.71	-	-
山形県	223	4.65	-	-	55	1.83	122	4.07	79	2.63	2	0.07	23	0.77	28	0.93	-	-
福島県	144	1.80	-	-	33	0.72	304	6.61	125	2.72	8	0.17	30	0.65	46	1.00	2	0.04
茨城県	86	0.73	-	-	49	0.67	246	3.37	78	1.07	10	0.14	31	0.42	38	0.52	-	-
栃木県	25	0.36	1	0.02	20	0.43	214	4.65	66	1.43	-	-	46	1.00	28	0.61	-	-
群馬県	354	3.54	1	0.02	64	1.03	221	3.56	121	1.95	3	0.05	24	0.39	47	0.76	-	-
埼玉県	223	0.87	11	0.07	169	1.07	862	5.46	290	1.84	6	0.04	61	0.39	150	0.95	-	-
千葉県	265	1.28	1	0.01	125	0.94	625	4.70	280	2.11	5	0.04	29	0.22	74	0.56	-	-
東京都	90	0.51	2	0.01	62	0.44	502	3.54	139	0.98	25	0.18	24	0.17	88	0.62	2	0.01
神奈川県	206	0.64	16	0.08	140	0.68	1055	5.12	372	1.81	19	0.09	135	0.66	183	0.89	3	0.01
新潟県	570	6.87	6	0.12	63	1.26	256	5.12	105	2.10	12	0.24	56	1.12	36	0.72	-	-
富山県	170	3.54	3	0.10	47	1.62	115	3.97	51	1.76	3	0.10	35	1.21	23	0.79	2	0.07
石川県	92	1.92	1	0.03	17	0.59	248	8.55	93	3.21	8	0.28	51	1.76	18	0.62	1	0.03
福井県	111	3.47	-	-	27	1.23	234	10.64	49	2.23	1	0.05	6	0.27	16	0.73	-	-
山梨県	89	2.17	-	-	24	0.96	109	4.36	29	1.16	-	-	11	0.44	14	0.56	-	-
長野県	250	2.91	-	-	48	0.89	309	5.72	83	1.54	2	0.04	38	0.70	40	0.74	-	-
岐阜県	68	0.97	1	0.02	63	1.34	134	2.85	80	1.70	-	-	16	0.34	25	0.53	-	-
静岡県	211	1.54	5	0.06	88	1.02	414	4.81	223	2.59	8	0.09	49	0.57	83	0.97	1	0.01
愛知県	143	0.75	6	0.03	97	0.53	825	4.53	260	1.43	17	0.09	38	0.21	106	0.58	-	-
三重県	126	1.73	-	-	36	0.80	399	8.87	80	1.78	3	0.07	26	0.58	38	0.84	-	-
滋賀県	49	0.92	1	0.03	10	0.31	129	4.03	78	2.44	3	0.09	11	0.34	16	0.50	-	-
京都府	75	0.60	1	0.01	40	0.53	466	6.13	89	1.17	3	0.04	51	0.67	32	0.42	-	-
大阪府	256	0.84	11	0.06	126	0.65	1087	5.57	310	1.59	15	0.08	68	0.35	129	0.66	7	0.04
兵庫県	282	1.42	6	0.05	88	0.69	1002	7.83	309	2.41	15	0.12	56	0.44	107	0.84	1	0.01
奈良県	58	1.05	1	0.03	18	0.51	184	5.26	81	2.31	-	-	15	0.43	25	0.71	1	0.03
和歌山県	56	1.12	-	-	10	0.32	132	4.26	38	1.23	-	-	10	0.32	15	0.48	-	-
鳥取県	54	1.86	-	-	14	0.74	283	14.89	47	2.47	3	0.16	10	0.53	20	1.05	-	-
島根県	52	1.37	4	0.17	10	0.43	86	3.74	37	1.61	26	1.13	17	0.74	18	0.78	-	-
岡山県	117	1.39	3	0.06	32	0.59	214	3.96	73	1.35	6	0.11	10	0.19	18	0.33	-	-
広島県	95	0.80	3	0.04	41	0.55	542	7.23	150	2.00	8	0.11	8	0.11	56	0.75	2	0.03
山口県	216	3.09	3	0.06	45	0.92	444	9.06	125	2.55	11	0.22	25	0.51	39	0.80	-	-
徳島県	88	2.32	3	0.13	13	0.57	145	6.30	30	1.30	4	0.17	12	0.52	17	0.74	1	0.04
香川県	105	2.06	1	0.03	18	0.56	126	3.94	84	2.63	16	0.50	22	0.69	15	0.47	-	-
愛媛県	65	1.02	2	0.05	50	1.28	314	8.05	77	1.97	-	-	25	0.64	39	1.00	-	-
高知県	42	0.86	-	-	33	1.06	144	4.65	49	1.58	55	1.77	16	0.52	18	0.58	1	0.03
福岡県	481	2.43	2	0.02	197	1.64	868	7.23	387	3.23	3	0.03	40	0.33	136	1.13	3	0.03
佐賀県	40	1.03	-	-	21	0.91	196	8.52	66	2.87	2	0.09	7	0.30	23	1.00	-	-
長崎県	135	1.93	-	-	23	0.52	186	4.23	78	1.77	-	-	29	0.66	19	0.43	-	-
熊本県	240	2.96	7	0.14	57	1.16	324	6.61	117	2.39	4	0.08	13	0.27	51	1.04	1	0.02
大分県	197	3.40	3	0.08	38	1.06	327	9.08	98	2.72	2	0.06	13	0.36	41	1.14	1	0.03
宮崎県	289	4.82	4	0.11	37	1.00	531	14.35	140	3.78	2	0.05	15	0.41	64	1.73	-	-
鹿児島県	91	0.94	4	0.07	33	0.55	608	10.13	236	3.93	-	-	9	0.15	48	0.80	-	-
沖縄県	81	1.40	-	-	5	0.15	44	1.29	123	3.62	8	0.24	6	0.18	13	0.38	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年14週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	106	0.04	231	0.08	504	0.17	4428	1.46	36	0.06	734	1.16	5	0.01	6	0.01	17	0.04
北海道	1	0.01	-	-	6	0.04	84	0.58	1	0.03	26	0.90	-	-	-	-	-	-
青森県	3	0.07	5	0.12	29	0.71	72	1.76	-	-	9	0.82	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	2	0.05	-	-	92	2.49	1	0.08	7	0.58	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	1	0.02	3	0.05	162	2.75	1	0.09	14	1.27	-	-	-	-	-	-
秋田県	1	0.03	-	-	6	0.17	62	1.77	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	1	0.03	164	5.47	-	-	8	1.00	1	0.10	-	-	2	0.20
福島県	1	0.02	2	0.04	27	0.59	115	2.50	-	-	15	1.25	-	-	-	-	-	-
茨城県	3	0.04	1	0.01	27	0.37	88	1.21	-	-	61	3.81	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.02	-	-	-	-	115	2.50	1	0.08	21	1.75	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	-	-	1	0.02	13	0.21	58	0.94	1	0.07	35	2.50	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	10	0.06	52	0.33	130	0.82	2	0.06	34	1.00	-	-	1	0.11	-	-
千葉県	1	0.01	6	0.05	71	0.53	120	0.90	-	-	48	1.41	-	-	-	-	-	-
東京都	2	0.01	8	0.06	10	0.07	94	0.66	1	0.07	18	1.29	-	-	-	-	-	-
神奈川県	7	0.03	6	0.03	22	0.11	194	0.94	3	0.07	51	1.21	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	3	0.06	1	0.02	153	3.06	-	-	16	2.67	1	0.08	-	-	-	-
富山県	-	-	1	0.03	2	0.07	89	3.07	1	0.14	2	0.29	-	-	-	-	-	-
石川県	1	0.03	-	-	-	-	75	2.59	-	-	-	-	-	-	1	0.20	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	9	0.41	-	-	-	-	-	-	1	0.17	2	0.33
山梨県	-	-	-	-	8	0.32	56	2.24	-	-	4	1.33	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	1	0.02	2	0.04	178	3.30	1	0.10	23	2.30	-	-	1	0.09	-	-
岐阜県	3	0.06	-	-	17	0.36	49	1.04	2	0.18	6	0.55	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	3	0.03	45	0.52	133	1.55	-	-	21	1.05	-	-	-	-	1	0.10
愛知県	1	0.01	12	0.07	109	0.60	205	1.13	1	0.03	33	0.94	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	1	0.02	6	0.13	50	1.11	-	-	7	0.58	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	-	-	-	-	2	0.06	28	0.88	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
京都府	6	0.08	1	0.01	2	0.03	69	0.91	-	-	10	0.56	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	9	0.05	5	0.03	151	0.77	3	0.06	24	0.46	-	-	-	-	-	-
兵庫県	4	0.03	5	0.04	1	0.01	144	1.13	5	0.14	28	0.78	-	-	-	-	1	0.08
奈良県	2	0.06	-	-	-	-	65	1.86	-	-	8	0.89	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	2	0.06	75	2.42	-	-	7	1.75	-	-	1	0.09	1	0.09
鳥取県	-	-	-	-	4	0.21	10	0.53	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	-	-	-	-	41	1.78	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.04	2	0.04	5	0.09	86	1.59	1	0.08	16	1.33	-	-	-	-	-	-
広島県	2	0.03	8	0.11	2	0.03	97	1.29	-	-	20	1.00	-	-	-	-	1	0.05
山口県	2	0.04	18	0.37	1	0.02	33	0.67	3	0.33	28	3.11	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	75	3.26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	1	0.03	4	0.13	46	1.44	-	-	4	1.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	9	0.23	-	-	97	2.49	-	-	24	3.43	-	-	-	-	2	0.33
高知県	-	-	6	0.19	-	-	20	0.65	-	-	5	1.67	-	-	1	0.13	-	-
福岡県	55	0.46	23	0.19	8	0.07	157	1.31	-	-	40	1.54	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	13	0.57	-	-	25	1.09	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
長崎県	1	0.02	8	0.18	-	-	65	1.48	3	0.38	17	2.13	-	-	-	-	1	0.08
熊本県	2	0.04	21	0.43	1	0.02	29	0.59	-	-	6	0.67	1	0.07	-	-	-	-
大分県	2	0.06	24	0.67	8	0.22	90	2.50	-	-	2	0.40	-	-	-	-	1	0.10
宮崎県	-	-	15	0.41	2	0.05	154	4.16	-	-	16	4.00	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.02	4	0.07	-	-	179	2.98	1	0.17	10	1.67	1	0.08	-	-	1	0.08
沖縄県	-	-	1	0.03	-	-	145	4.26	4	0.40	4	0.40	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年14週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	44	0.09	1	0.00	10	0.02
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	2	0.10	-	-	-	-
宮城県	5	0.42	-	-	-	-
秋田県	1	0.13	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-
東京都	1	0.04	-	-	1	0.04
神奈川県	-	-	-	-	3	0.27
新潟県	7	0.58	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	2	0.33	-	-	-	-
山梨県	6	0.60	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	2	0.20	-	-	3	0.30
愛知県	1	0.08	-	-	3	0.23
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	1	0.17	-	-	-	-
大阪府	1	0.07	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	2	0.33	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	2	0.40	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-
山口県	2	0.25	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.17	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	1	0.07	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	1	0.08	-	-	-	-
熊本県	3	0.20	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第4巻、第14号 平成14年4月19日発行
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
<国立感染症研究所 感染症情報センター>
http://www.mhlw.go.jp/
<厚生労働省>
http://www.forth.go.jp/
<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。